

令和元年度 ACTR

分類 番号	A23	取組 名称	宇治市・西小倉地域(近鉄小倉駅周辺)における市民との協働型まちづくりのあり方検討(その2)
研究代表者所属・職名： 京都地域未来創造センター・統括マネージャー 氏名： 青山 公三			
研究担当者： 京都府立大学 京都地域未来創造センター（永田恵理子、橋爪さやか）（敬称略） 外部分担者・協力者（宇治市都市計画課 米田晃之氏、大井上 誠氏 内藤 良氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府宇治市都市計画課、			
【研究活動の要約】			
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 宇治市西小倉地域（近鉄小倉駅周辺）では、現都市計画法が施行される以前に開発された住宅が広がり、かつ住宅が密集して人口密度も高い状況にある。地区全体の人口は約3万人で、高齢化も進み、空家も増加している。防災上の問題も含め、多くの地区整備課題があり、それらについて調査を通じて明らかにしていくとともに、地域の住民を巻き込んだ将来に向けた検討が必要であった。 ➤ H.30年度の調査では、近鉄小倉駅周辺約7,000戸の住宅をつぶさに調べ、これらの実態をGIS（地理情報システム）を活用して地図上に落とし、調査した諸データを地域の住民にも2か所で報告し、ワークショップを開催した。また、地域の商業・サービス業の経営者とのワークショップを開催した。 ➤ R元年度には、小倉地区約7,600世帯に対するアンケート調査を実施し、32.2%の回収率を得た。アンケートでは小倉駅周辺の整備課題や、交通環境の課題、生活環境の課題、防災・防犯上の課題、住みやすさ、定住意識等々を聞いた。 ➤ 詳細は研究活動の成果を参照されたいが、小倉駅周辺に住む皆さんは、小倉駅の利便性を高く評価しつつ、駅周辺の機能整備は喫緊の課題と感じていることが分かった。また、水害等への防災意識も高く、防災的な観点を含めた整備が必要であることが分かった。こうした課題はあるが、総じて住みやすいとする人が80%以上、住み続けたいという人が90%弱に達している。 ➤ アンケート結果について地区内3か所で結果報告会を開催し、参加者によるワークショップを開催した。 			
【研究活動の成果】			
<p>◎ 本年度の最も重要な成果は、小倉地区内の全世帯（約 7,600 世帯）にアンケートを配布し、32.2%の回収率を得たことである。そのアンケートの中では、以下のようなことが分かった。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小倉地区の地区別交通環境の問題は、地区により評価が分かれる、駅東部と駅西部の評価が大きく異なるのは、交通量多く危険、通学路が危険、踏切が不便などとなっている。 ② 小倉駅西の改善課題には、駅前広場が無い、車での送迎不便などを 50%前後の方が挙げている。また、特に駅西地区にお住まいの方にバス路線がない、踏切が不便、駐輪が不便を挙げられている。 ③ 小倉駅東の改善課題には、玄関の雰囲気なし、賑わいが乏しい、駅の地下通路不便等が多く挙げられている。特に雰囲気、賑わいについては、駅東に住む方々が多く挙げている。 ④ 小倉駅に必要な整備に関して、全体的には駅東西の連絡自由通路を半数弱の方が挙げている。次いで多いのが連続立体交差、駅橋上化となっている。 ⑤ 環境問題では圧倒的に水害の危険性を挙げる方々が多くなっている（特に駅西部）。水害以外では、公園緑地不足、子供の遊び場不足、河川水路等のゴミ、交通渋滞、ゴミ分別収集等々が挙げられる。 ⑥ 地区別の防災・防犯の課題として最も多く挙げられたのは災害時の通信手段確保で、次いで避難場所・経路指定、備蓄、街路拡張・整備、高齢者・障がい者等の所在把握などの順になっている。 ⑦ 住み続けたいと考える人が圧倒的に多く、全体では 88%に達する。住み続けたい理由としては、日常生活に便利、近所付き合いが良い、通勤・通学に便利などが挙げられている <p>◎ アンケート結果の報告会と合わせて開催したワークショップでは、駅前整備に焦点を当てて議論したが、</p>			

もっと立ち寄れる店、待ち合わせ等の時間を過ごせる店等々のアイデアが出たほか、車の利用に対する駅前での利便性向上などが出された。

【研究成果の還元】

＜地区内3地区における報告会・ワークショップ開催＞ 前半でアンケート調査結果報告、後半でワークショップ「近鉄小倉駅周辺におけるこれからのまちづくりを考える会」

- 京都府立大学による2019年度まちづくり市民アンケート調査結果概要報告と市民ワークショップ—
- 第1回 2020年1月25日(土)小倉連合町内会(駅南西部) 13:00~@西小倉地域福祉センター
参加者: 28名 事務局・市役所関係: 13名 合計 41名
- 第2回 2020年1月28日(火)小倉連合町内会(駅東) 19:00~@小倉公民館
参加者: 18名 事務局・市役所関係: 11名 合計 29名
- 第3回 2020年2月7日(金)小倉連合町内会(駅北西部) 19:00~@西小倉コミュニティセンター
参加者: 32名 事務局・市役所関係: 14名 合計 46名

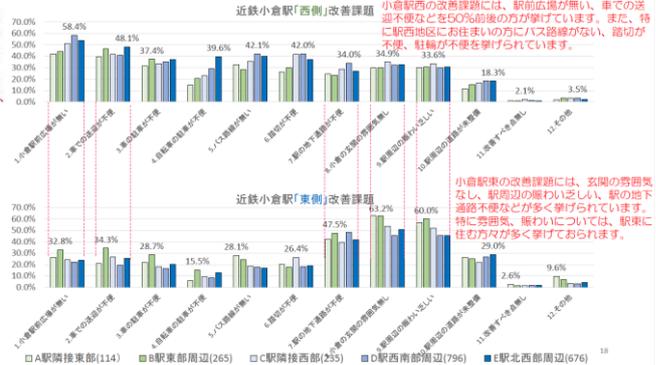
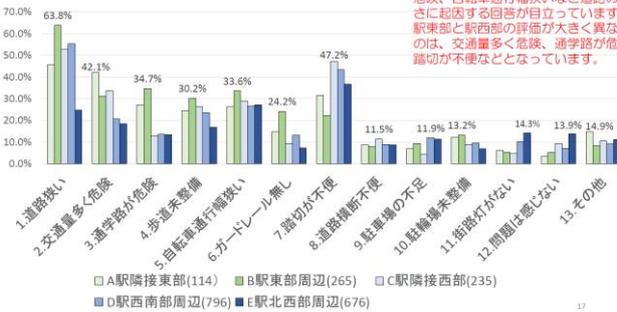
【お問い合わせ先】 京都府立大学 京都地域未来創造センター 研究員 永田 恵理子
Tel: 075-703-5357 E-mail: eriko@kpu.ac.jp

＜参考＞

アンケート調査の結果概要

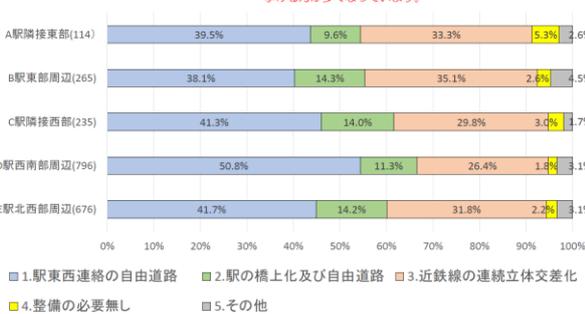
地区別交通環境の問題

地区名の後の()内は回答者数



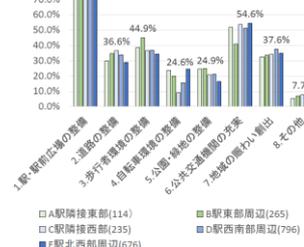
地区別小倉駅に必要な整備

地区名の後の()内は回答者数



地区別居住地域で望むこと

地区名の後の()内は回答者数



年齢階層別地域で望むこと

地区名の後の()内は回答者数



全体的には駅・駅前広場の整備が任意的に多く、次いで公共交通機関の整備、歩行者環境の整備などが挙げられています。地区別には顕著な違いがなく、わずかに東地区で歩行者環境、公園・緑地が挙げられています。

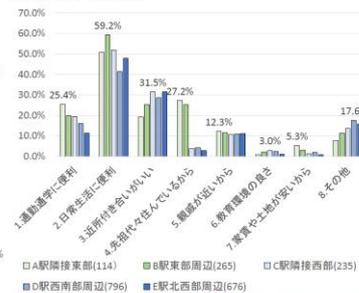
年齢別には比較的大きな違いがあります。若い人ほど道路の整備、歩行者環境整備、自転車環境整備、公園緑地などを挙げています。一方で高齢者は公共交通機関を望んでいます。

第3回報告会・ワークショップ(2/7 西小倉コミュニティセンター)

居住継続の意思



住み続ける理由



住み続けたいと考える人が圧倒的に多く、全体では88%に達しています。地区別には相対的に駅東の方の居住継続意識が高くなっています。

住み続けたい理由としましては、日常生活に便利、近所付き合いが良い、通勤・通学に便利などが挙げられています。地区別には、車の力が日常生活、通勤・通学を挙げ、西の場合は近所付き合いを挙げています。

